

群馬県立しろがね特別支援学校 学校評価一覧表② (平成27年度版)

(様式2)

評価対象	羅 針 盤		達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題
	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合		
I 児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	① 学校公開を実施し、来校者の85%以上が満足している。	A	A	A	○学校公開について、案内チラシやWebページ等で広報してきた。学校公開日でなくとも随時見学に対応した。来校者への説明にはプレゼンテーションソフトを利用し、視覚的にわかりやすいように工夫することができた。	○学校公開日以外でも随時見学できることを引き続き周知する。今後もWebページの更新頻度を維持するようにする。来校者や保護者にアンケート調査を実施し、必要な情報や要望についての的確に対応する。
		② 学校だより等で情報発信を行い、保護者の85%が満足している。	A	A	A	○学校だよりの紙面レイアウトを見やすいように工夫するとともに、写真を増やし児童生徒の学習活動の様子を積極的に掲載することができた。	○保護者が必要とする情報を適切な時期に提供できるようにする。
		③ 交流および共同学習について、保護者の85%以上が満足している。	A	A	A	○継続的に相手校と相互訪問し、児童生徒同士の交流を行うことができた。また、交流の様子を学校だよりや連絡帳を通じて保護者に報告することで、保護者の交流教育への理解を深めることができた。	○今後も交流及び共同学習がより充実するよう、各学部ごとに内容を検討することで、相手校と相互訪問することの意義がさらに高まるようにする。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	④ 「個別の教育支援計画」について、保護者の85%から理解を得ている。	A	A	A	○作成上のマニュアルを見直して充実を図り、保護者と共通理解のもとで進められるようにすることができた。記載内容を検討し、読み手も書き手も確認しやすいように改善することができた。	○個別の教育支援計画の活用方法によって、どの項目をどのように記入すればよいのか、分かりやすい事例を作成することにより、担任から保護者への説明がしやすくなるようにする。
		⑤ 児童生徒が他者との人間関係を深める機会を年間3回以上持ち、保護者の85%以上から理解を得ている。	A	A	A	○児童生徒が、あいさつ運動、クラス団結式、校外美化活動、学校間交流をとおして、人間関係を深められるような活動や交流をすることができた。	○行事の見直しや精選を行い、活動内容をさらに充実させ、特に、個人同士の交流をより深められるような工夫をする。
II 地域の特別支援教育に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 幼稚園、小・中・高等学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	⑥ 地域の幼児児童生徒に対する相談を400件、研修会や講演会の講師を3回以上実施する。	A	A	A	○12月末時点で、相談件数は560件にのぼり、参観の後の面談でも担任だけでなく、コーディネーターや主任を交えた話し合いができるようになった。研修会や講演会の講師も7回になり、本校のセンター的機能が認められるようになった。	○様々な研修会等に参加し、専門アドバイザーの資質向上に努めるとともに、ケース会議を多く設定し、子どもの対応について、相手校の職員の共通理解が持てるようにする。また、教科指導や学級経営についても改善が図られるよう積極的に助言等を行う。
		⑦ 本校のセンター的機能の取り組みについて保護者の85%以上から理解を得ている。	A	A	A	○特別支援教育通信「しろがねっと」を年に10回以上配付することにより、本校の取り組みが周知されるようになった。	○「しろがねっと」の内容の充実を図るとともに、各関係機関とも積極的に連携を取るようになる。
III 児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑧ 一人一人の学習および生活状況について「個別の指導計画」によって、学園職員や保護者と確認する機会を年間3回以上設定している。	A	A	A	○各学期に1回のケース会議および保護者面談を実施した。さらに、夏季休業中に家庭訪問を実施した。これにより、「個別の指導計画」について年間4回の話し合いができた。	○各学期に1回のケース会議および保護者面談、夏季休業中に家庭訪問を実施する。その中で、児童生徒の学習状況や生活状況について、「個別の指導計画」を通じて、分かりやすく保護者等へ伝えながら、今後の指導や支援についての協力連携を深める機会とする。
		⑨ 学校の教員に相談しやすいと保護者の85%以上が感じている。	A	A	A	○学校での学習や生活の状況を連絡帳で学園職員や保護者に毎日伝えることができた。保護者アンケートで「話がしやすい」等の記述が見られた。	○ケース会議や保護者面談、家庭訪問を実施する他、毎日の連絡帳で連絡を密にする。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑩ 「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が85%である。	A	A	A	○各学期に1回、「個別の指導計画」の目標、手立て、評価等に関わる検討会を実施した。さらに11月には中間検討会を実施した。	○「個別の指導計画」の目標、手立て、評価等に関わる検討会を各学期に1回以上実施し、今後の指導や支援に関わる具体的な方策を検討する機会とする。
⑪ 「個別の指導計画」に基づいた指導結果に、保護者の85%が満足している。		A	A	A	○各学期に1回のケース会議及び保護者面談を実施した。さらに、夏季休業中に家庭訪問を実施した。保護者アンケートで「満足している」等の記述が見られた。	○各学期に1回のケース会議および保護者面談、夏季休業中の家庭訪問で、「個別の指導計画」についての話し合いを一層深める。特に、成果や課題、今後の方策等について、保護者に十分理解してもらう機会とする。	
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫ 健康上の配慮や対応についての情報交換を年間3回以上実施している。	A	A	A	○保護者や学園職員と、児童生徒の健康上の配慮や対応についての情報交換を家庭訪問やケース会議等で年3回以上実施した。	○家庭訪問やケース会議以外でも、行事のときなど保護者と話ができる機会を活用し、健康に関する情報を共有できるように努める。
		⑬ 保健だよりや受診のすすめ等をとおして、学園職員及び保護者の85%から理解を得ている。	A	A	A	○定期的に保健だよりを発行し、学園職員や保護者へ健康に関する情報を提供した。健康診断終了後、受診のすすめを配付し、未受診者には再度通知した。	○保健だよりの内容の充実を図る。保健だよりなどでも疾病と健康のことについて触れ、受診率の向上を図る。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭ 全教職員が緊急時対応訓練に年間3回以上参加し、具体的対応について教職員の85%以上が理解できている。	A	A	A	○合同火災避難訓練、地震対応訓練、また、昨年度に引き続いて防災訓練を実施した。特に、防災訓練は専門家の指導のもとで実地に即した訓練となり、先遣隊の組織化と本番での初期対応が可能になった。	○今後も「危機管理マニュアル」の更新を年1回必ず行い、職員全員の危機意識の向上に役立てる。
		⑮ 校内の教育環境について保護者の85%以上が満足している。	A	A	A	○全教職員による月一度の安全点検を確実にし、危険箇所の把握と改善を行った。	○総合安全点検について広報し、保護者に校内環境への安心とさらなる関心を啓発する。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	⑯ 発達段階に応じた進路指導を行うために、学部間での情報交換を年間3回以上行っている。	B	B	B	○発達段階に応じた教育活動が行えるよう、学校全体のキャリア教育全体計画作成のための児童生徒実態表を学部間で情報交換しながら作成した。	○作成した実態表をもとに、キャリア教育全体計画を作成し、本校での教育活動がさらに系統立てられたものになるようにする。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑰ 進路関係の行事を年間3回以上実施し、進路に関する情報について参加保護者の85%以上が満足している。	B	A	A	○施設見学会や移行支援会議などの行事を実施した。施設に関する情報や進路手続きに関する流れなど、保護者に伝えることができた。
	⑱ 進路関係の配布物や学校から提供される進路指導に関する情報が役立っていると保護者の100%が満足している。		A	A	A	○進路だよりや進路相談などで、児童生徒に応じた情報を提供することができた。その都度、保護者からの質問に対し、速やかに対応することができた。	○進路情報や保護者からの質問に対して、迅速で正確に伝えられるよう関係機関との連携を一層深める。